

2022年06月 現在

FUJITSU Software

Interstage Navigator Server Standard Edition V9.4.1

本商品は、エンドユーザの視点で容易な情報活用ができるビジネスインテリジェンス商品です。部門業務の効率化のために、データウェアハウス/データマートを活用する場合に適用する商品です。本商品は、データウェアハウスからの情報活用に必要な基本機能に加えて、必要なセキュリティ機能や、運用機能を備えています。

- **サーバ**

SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント

- **クライアント**

FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- サーバ

Solaris 11(64bit) / Solaris 10(64bit)

- クライアント

Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1 / Windows 8(64-bit) /
Windows 8 / Windows 7(64-bit) / Windows 7 / Windows Vista

1. セールスポイント

- ・エンドユーザ自身による情報活用の実現が可能
- レイアウト画面に項目を貼り付けるだけの直感的な操作で、分析・管理向けの帳票が作成できます。
- 多次元モデルを使った複雑な集計をGUIの簡単な操作で行うことができます。データベースの専門知識のない一般利用者でも、各自の分析・管理の視点(管理ポイント(注))で素早く分析することができます。
- エンドユーザ自身が、GUI操作で簡単に、独自の分析・管理の視点を追加することができます。データベースの構造を変更する必要がないため、システム部門での作業は不要です。
- 本製品の先進的な情報活用技術は、「データベースシステムおよび、その情報活用支援装置」として、日本国内はもとより海外で包括的な特許を取得しています。

注)管理ポイント：「管理ポイント」とは、「～ごと」「～別」といった情報を分析する場合のデータの切り口で、分析や帳票作成のためにデータを検索したり、集計したりする場合の分類キーとなります。管理ポイントを利用することで、データベースのデータを変更することなく、情報活用をすることができます。

- ・日本企業の帳票文化に合った豊富な帳票機能を搭載
- 縦横帳票、ブレイク帳票などの一般帳票からABC分析、RFM分析などの分析帳票まで、豊富な種類の帳票をサポートしています。
- 多くの日本企業で用いられている会計年度概念をサポートしています。企業ごとに定められた年度や月度の単位でデータを集計し帳票にすることができます。
- 月次報告などの帳票作成処理を簡単に定型化することができます。
- ・情報活用に不可欠なセキュリティ機能

アクセスログ機能を使用することにより、利用者の問い合わせ操作で発生するデータベースアクセスのアクセス記録および、発行したSQLをログとして出力し、不正使用の監視などに利用できます。

- ・企業内での適用に向けたセキュリティ

エンドユーザの問い合わせ操作に伴う、データベースへのアクセス情報、問い合わせ結果、およびエンドユーザの操作内容をログとして保存し、利用状況の把握や不正使用の監査を行うことができます。

2. 詳細機能

(1) 容易な情報の取り出し

a) 直感的でわかりやすい情報の取り出し

- ・情報レイアウトパネルにデータ項目や管理ポイント(管理・分析の視点)を貼り付けるだけの簡単な操作で縦横集計表、時系列集計表または明細表形式の情報を取り出すことができます。
- ・情報レイアウトパネル上で管理ポイントを追加、変更、移動するだけの簡単な操作で、OLAP(注1)、ドリリング(注2)やスライス&ダイス(注3)などが可能です。

(注1) OLAP : OnLine Analytical Processing

(注2) ドリリング : 大分類から中・小分類に対象を絞り込みながらの分析や、集計した値の元となった明細データを参照する分析

(注3) スライス&ダイス : 異なる視点の組み合わせによる試行錯誤的な分析

b) 高度な分析機能

- ・クロスクエリ機能(注4)やイベントアナライザ機能(注5)を利用することで、一度の問い合わせでは結果の得られない複雑な問い合わせをGUI操作で簡単にこなせます。

(注4) クロスクエリ機能 : 問い合わせ結果のデータを他の問い合わせの条件として利用できる機能

(注5) イベントアナライザ機能 : 時系列に関係のあるデータの組み合わせを抽出する機能

- c)使い慣れたOAソフトウェアの操作の延長で現行業務に組み込み
- ・取り出した結果をExcelなどのOAソフトウェアと連携ができます。

(2)メタ情報による情報活用

a)データの公開/非公開

- ・エンドユーザに対して必要なデータのみを公開することができます。部門などのグループ単位で、スキーマ、テーブル、および項目の公開/非公開の設定とレコードの公開条件を設定することができます。

b)日本語見出しの定義

- ・スキーマ、テーブル、項目などに日本語の見出しを設定することにより、日常の業務用語を用いて帳票作成やデータ分析を行うことができます。

c)データ構造の定義

- ・スキーマ、テーブル、データ項目の一覧表から対象を選択するだけの簡単操作でデータベースの公開範囲を、業務や目的ごとのグループに対して設定することができます。
- ・テーブルの分類(マスタテーブルか実データテーブルか)や、項目の意味(コード かラベルか)、更に結合関係(どの項目とどの項目で結合するのか)などの、データの意味を簡単なマウス操作で設定することができます。

d)分析の切り口を自由に設定できる管理ポイント

- ・管理ポイントをカスタマイズしたり、データ項目の値の意味付け(区分け方法)をして共通の管理ポイントを定義することができます。共通の管理ポイントは一般利用者が情報活用の場面で利用ができます。GUIを使用した簡単な操作で管理ポイントを定義することができます。
- ・共通の管理ポイントのほかに、個人ごとの管理ポイントが定義できるため、それぞれのユーザの独自の視点でデータを分析することが可能です。

(3)Webブラウザからの操作 (Webコンポーネント)

a)どこからでも情報活用が可能

Webブラウザの環境さえあれば、Navigatorを利用して情報を活用することができます。

注)インストールして利用するクライアントも利用できます。

b)わかりやすいユーザインターフェース

表の出力イメージを確認しながら問い合わせ操作を行うことで、より簡単な情報活用が可能です。

c)プラグイン不要、メンテナンス不要のWebクライアント

Webクライアントとして利用するPCにはソフトウェアをインストールする必要がないため、利用者のメンテナンス作業の負担を軽減することができます。

注)Webコンポーネントとは、Webブラウザから情報活用するための機能を提供するコンポーネントです。

(4)レポートの共有、自動更新 (Webコンポーネント)

a)多人数で情報共有

問い合わせの雛型（定型の問い合わせ）をWeb上で公開することにより、一般の利用者は、誰でも、簡単にデータウェアハウスの情報を参照することができます。また、参照した情報は、ダウンロードできます。

b) レポートの管理

フォルダや問い合わせにアクセス権を設定することにより、適切なグループ、ユーザを限定して問い合わせを公開することができます。また、登録した問い合わせ結果の版数を管理し、複数の問い合わせ結果を格納できます。

c) 既存の定型レポートの条件を変えて最新の情報を入手

利用者は、公開された情報をただ見るだけでなく、データの範囲などの条件を変えて、最新の情報を入手できます。（条件を変えられるレポートを半定型の問い合わせと呼びます）

d) 自動更新のスケジューリング設定

公開している問い合わせに自動更新のスケジュールを設定することができます。これにより、夜間などに自動更新するように設定しておくことで、常に最新の情報を共有できます。

(5) セキュリティ機能

a) 認証・管理

オペレーティングシステムによるサーバ毎の利用者認証(OS認証)と以下の利用者管理機能が使用できます。

- ・ 接続中の利用者の表示(状態、資格、接続開始時間)
- ・ 利用者の強制切断
- ・ 利用者へのメッセージ通知
- ・ 新規接続の抑止

b) アクセスログの取得

アクセスログ機能を使用することにより、利用者の問い合わせ操作で発生するデータベースアクセスのアクセス記録および、発行したSQLをログとして出力し、不正使用の監視ができます。また、テーブルや管理ポイントの使用状況の把握、データベースのチューニング等のシステム運用支援にも活用できます。

c) 利用者の強制切断

- ・ 一定時間以上サーバにアクセスがない場合に自動的に切断するため、不正利用を減少させることができます。
- ・ 管理者が利用中のクライアントを強制的に切断することができます。これによって、異常なアクセスが行なわれている場合、速やかに排除できます。

d) サーバ-Webブラウザ間の暗号化

Webブラウザから操作する場合には、SSLが利用でき、サーバとの通信内容を暗号化して通信できます。

e) 情報保護

Systemwalker Desktop Keeper、および暗号化ソフトウェアとNavigatorを組み合わせることで、情報漏洩に対するセキュリティを強化できます。例えば、Systemwalker Desktop Keeperと組み合わせると、印刷の抑止や他メディアへのコピーの抑止ができ、暗号化ソフトウェアと組み合わせることで、ウイルスによる情報漏洩などの対策強化を図れます。

(6) Webサーバのスケラビリティ向上

負荷分散装置を利用することで、利用人数に応じて、Webコンポーネントを複数台利用した負荷分散システムを構築できます。サーバを後で追加することで、利用者の増加に応じたシステムの増強ができます。

(7)他サイトのデータベースへのアクセス

Navigator Server以外のサーバにあるデータベース（他サイトのデータベース）から簡単な操作で、情報の取り出しができます。

(8) データウェアハウスの運用・管理

以下のコマンドにより、サーバの運用/管理を自動化することができます。

- ・辞書(注)の退避・復元コマンド(辞書の保全)
- ・辞書の複写(辞書の退避コマンドと復元コマンドを組み合わせた部門間の辞書複写)
- ・当月度の設定コマンド(データの \times 処理と連動した辞書設定)
- ・辞書のユーティリティコマンド(テーブル情報、テーブル結合情報、管理ポイントの一括設定)

注)辞書：データを参照する時のくくり方や切り口、データの公開制限などの情報活用に必要な定義を、Navigatorでは、辞書と呼んでいます。

(9)CSVデータを利用した簡易な情報活用

CSVデータを利用して情報活用でき、DWHを構築することなく低コストで簡単に情報活用システムを構築できます。

また、DWHを構築している場合でも、DWHにない一時的に分析したいデータや、変化の激しいデータなどを、CSVデータとしてそのまま分析できます。

CSVデータをそのまま分析できるため、データベースの設計、作成が不要で、手軽に分析を始められます。

(10)アプリケーションプログラムの開発環境

a)NavigatorAPI

問い合わせカタログ機能を利用したアプリケーション開発が可能となります。

b)サーブレットインターフェース

サーブレットインターフェースを装備しているため、エンドユーザは、作成した問い合わせ結果をダウンロードして参照できます。また、このインターフェースを利用して、問い合わせ条件を変更して実行する、半定型処理を行うHTMLページを作成できます。HTMLページの作成には、CGI(CommonGateway/Interface)やJavaAPI(Javaアプリケーションプログラミングインターフェース)を利用します。

半定型処理を行うHTMLページは、GUIから簡易に作成することもできます。

3. 利用による効果

(1)情報活用の場面

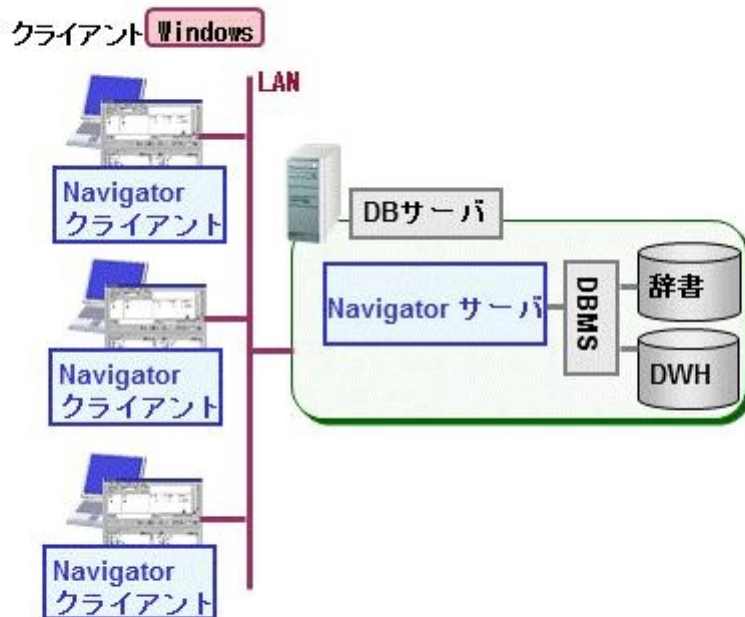
- ・部門主体の情報活用が可能となるため、環境の変化にも迅速に対応することができます。
- ・部門で共有する管理ポイントを共通の管理ポイントとして定義することにより、一貫性のある業務処理を行うことができます。
- ・定型的な情報の取り出しだけでなく、ドリリング（大分類から中・小分類を対象を絞り込みながらの分析や、集計した値の元となった明細データを参照する分析）やスライス&ダイス（異なる視点の組み合わせによる試行錯誤的な分析）などの分析的な情報の活用が可能となります。

- ・OAツールとシームレスに連携ができるため、管理表や分析表をOAツールなどで作成している利用者は、使い慣れたOAツールの操作の延長で、データベースからの情報取り込みを行うことができます。

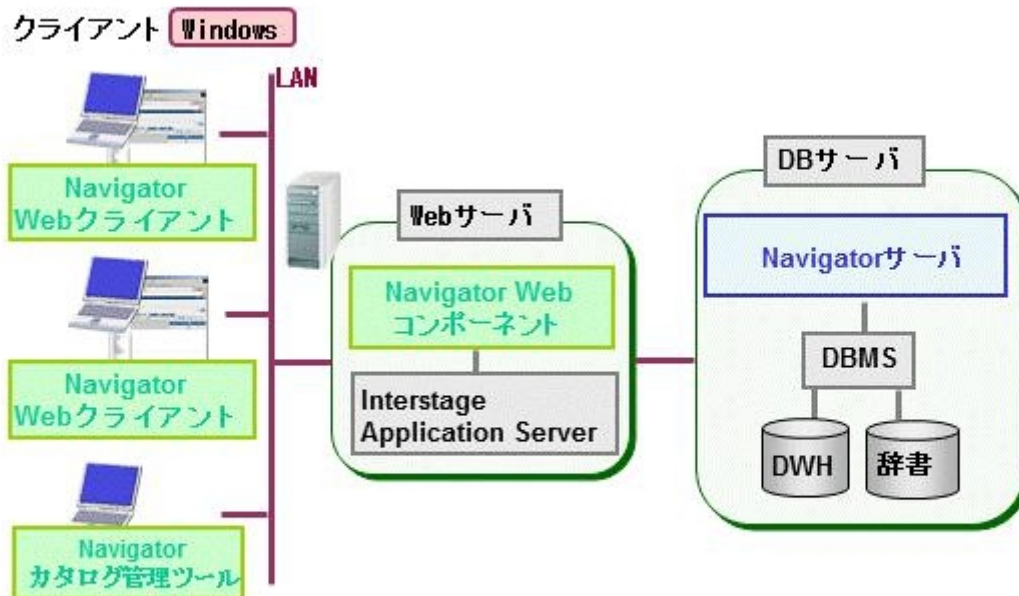
(2)企業内での部門規模での情報活用

- ・企業内で利用する上で必要なセキュリティ機能を装備しています。
- ・エンタープライズ認証を利用することで利用者管理をユーザシステム上の利用者認証システムに一元化することが可能となります。
- ・利用しやすいWebブラウザのユーザインターフェースを装備しています。

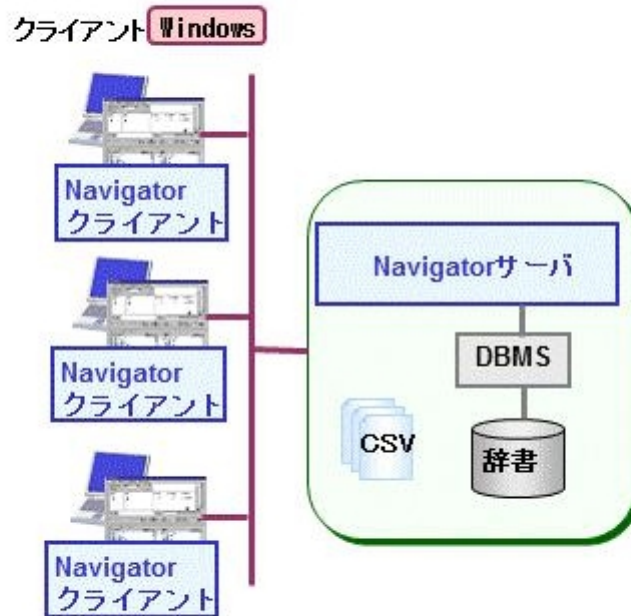
■ Navigator Serverのサーバ構成



■ Webブラウザを利用する場合のサーバ構成(Webコンポーネント)

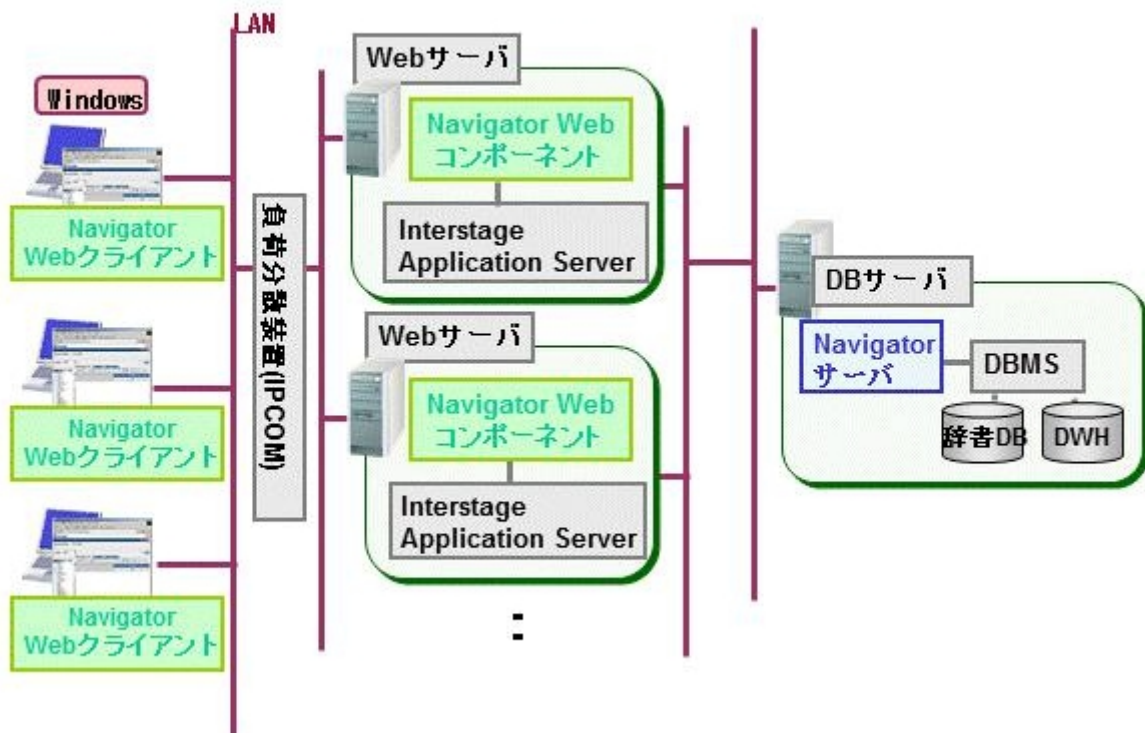


■ CSVデータを利用した情報活用を行う場合のサーバ構成



※クライアントは、Webクライアントから利用できます。

■ Webコンポーネントを負荷分散する場合



V9.4.0からV9.4.1の機能強化項目は以下のとおりです。

1. 対応データベースの追加

- ・ Symfoware Server Standard Edition V12 (Openインターフェース) (注)
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V12 (Openインターフェース) (注)
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V12 (Nativeインターフェース)
(注) Openインターフェースは参照用のみです。
- ・ Oracle Database Standard Edition 2 R12.1.0
- ・ FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for HA Database SX3

2. Office製品サポートの拡大

以下のOffice製品に対応しました。

- ・ Microsoft Word2016
- ・ Microsoft Excel2016

3. Windows 10、Windows 10(64-bit)に対応

Windows 10、Windows 10(64-bit)対応しました。(注1)(注2)

(注1) : Windows 10ならびにWindows 10 (64-bit)はWOW64(Windows 32-bit On Windows64-bit)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

(注2) : Microsoft Edgeには対応していません。Internet Explorer 11をご利用ください。

4. Visual Studio 2015に対応

Visual Studio 2015に対応しました。

・ オンラインマニュアル

- Interstage Navigator Server 概説書
- Interstage Navigator Server 新機能ご紹介
- Interstage Navigator Server セットアップガイド Vol.1
- Interstage Navigator Server セットアップガイド Vol.2
- Interstage Navigator Server 管理者ガイド（辞書管理ツール編）
- Interstage Navigator Server 管理者ガイド（カタログ管理ツール編）
- Interstage Navigator Server ユーザーズガイド Windowsクライアント編
- Interstage Navigator Server ユーザーズガイド Webクライアント編
- Interstage Navigator Server Visualminerユーザーズガイド
- Interstage Navigator Server コマンドリファレンス
- Interstage Navigator Server メッセージリファレンス
- Interstage Navigator Server QA集
- Interstage Navigator Server トラブルシューティング集
- Interstage Navigator Server 用語集
- Interstage Navigator Server Navigator API プログラマーズガイド（Visual Basic編）
- Interstage Navigator Server Navigator API プログラマーズガイド（Visual C++編）
- Interstage Navigator Server Navigator API サンプルプログラム説明書

商品体系

【メディアパック】

- ・ Interstage Navigator Server Standard Edition メディアパック V9.4.1

【ライセンス】

- ・ Interstage Navigator Server Standard Edition プロセッサライセンス（1年間24時間サポート付）V9

本商品のライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体(CD/DVD等)のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。バージョンアップ/レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

2. ライセンスについて

(1) プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。

・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサ（CODモデルの場合はCPU RTUライセンスを持つ稼働CPU）あたり1本の購入が必要です。

・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

-SPARC M10では、CPUコアアクティベーションキーにより有効化されたコアの総数に特定の係数を乗じます。

-SPARC Enterprise/PRIMEPOWERのCODモデルでは、CPU RTUライセンスを持つ稼働CPU上のコアの総数に特定の係数を乗じます。

マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「FUJITSU Software（ライセンス）」内の「富士通製ミドルウェアのライセンス体系について」を参照ください。または、「ソフトウェアサイト（富士通のソフトウェア 販売関連情報(制度)）」内の「マルチコアプロセッサを搭載したサーバにおけるミドルウェア製品の購入方法について」を参照してください。

3. コンポーネントについて

本商品に添付される「Navigator Webコンポーネント」は、インストールフリーです。

4. クライアントソフトウェアについて

本商品に添付されるクライアントソフトウェアは複数台のクライアントにインストールすることができます。

5. ダウングレード使用について

本商品のライセンスを購入することにより、本製品の旧バージョンを使用する権利を得ることができます（以降、「ダウングレード使用」と呼びます）。「ダウングレード使用」を適用する際には、旧バージョン商品のインストール媒体をお客様が既に購入されていることが前提となります。購入が必要なライセンス数については、本商品のライセンス購入方法に従ってカウントします。なお、本商品と旧バージョン商品を同時に使用することはできません。また、本商品の次バージョン以降を使用する権利はありません。

「ダウングレード使用」可能な旧バージョン商品は、以下の通りです。

- Interstage Navigator Server Standard Edition 8.x
- Interstage Navigator Server Standard Edition 7.x
- Interstage Navigator Server Standard Edition 6.x

6. 7.x以降からのバージョンアップについて

Interstage Navigator Server Standard Edition 7.x以降の本商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、新バージョンを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン商品を改めてご購入頂く必要があります（価格の優遇はございません）のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、弊社営業 / SEにお問い合わせください。

7. 6.x 以前からのバージョンアップについて

6.x以前の本商品、あるいは Symfoware Navigator をお持ちの場合は、弊社営業/SE にお問い合わせください。

1. 必須ソフトウェア

以下の何れかのデータベース製品

- ・ Symfoware Server Enterprise Extended Edition V8/V9/V10/V11
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V8/V9/V10/V11
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V12 (Nativeインターフェース)
- ・ Symfoware Server Standard Edition V8/V9/V10/V11
- ・ Symfoware Server Standard Edition V12 (Nativeインターフェース)
- ・ Oracle Database Enterprise Edition R10.2.0/R11.1.0/R11.2.0/R12.1.0/R12.2.0
- ・ Oracle Database Standard Edition 10.2.0/R11.1.0/R11.2.0/R12.1.0
- ・ Oracle Database Standard Edition One R10.2.0/R11.1.0/R11.2.0/R12.1.0
- ・ Oracle Database Standard Edition 2 R12.1.0/R12.2.0

なお、データ参照用のみ、以下のデータベースも利用できます。(ただし、Navigatorサーバの辞書用として、上記データベースのいずれかが必要です。)

- ・ Symfoware Server Standard Edition V12 (Openインターフェース)
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V12 (Openインターフェース)
- ・ Symfoware Analytics Server Standard Edition V12
- ・ DataDirect Connect ODBC Driver for Server 3.6で接続されたデータベースシステム
- ・ Symfoware ServerのRDA-SV機能を使用して接続されたデータベースシステム (注)
(注) Navigator Server が32bitの場合のみ、利用可能。
- ・ Sybase IQ 15/16 (販売元：株式会社 富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ)
- ・ FUJITSU Integrated System Analytics Ready
- ・ FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Analytics
- ・ FUJITSU Integrated System HA Database Ready SX1/SX2(Open SQLを利用した接続のみ可能です)
- ・ FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for HA Database SX3(Open SQLを利用した接続のみ可能です)

2. Webサーバを利用する場合

以下の何れかの製品が必要です。

(Oracle Solaris)

- ・ Interstage Application Server Standard-J Edition V9/V10/V11 (32bit)
- ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V9/V10/V11 (32bit)

3. 辞書データベースにEUC/Unicodeを利用する場合

以下の製品が必要です。

- ・ Interstage Charset Manager Standard Edition Agent V8/V9

4. 帳票作成 / 帳票印刷機能を利用する場合

以下の何れかの製品が必要です。

(Windows)

- ・ Interstage List Creator Workstation V8/V9
- ・ Interstage List Creator Enterprise Edition V8/V9/V10
- ・ Interstage List Creator Standard Edition V8/V9/V10

(Oracle Solaris)

- Interstage List Creator Enterprise Edition V8/V9/V10
- Interstage List Creator Standard Edition V8/V9 /V10

5. 情報保護（暗号化、コピー抑止、印刷抑止）を利用する場合

クライアント上で保存データを自動的に暗号化する運用を行う場合は、暗号化製品が必要です。
富士通ビー・エス・シーが販売する「FENCE-PRO」などをご利用ください。

コピー抑止、印刷抑止を利用する場合は、以下の何れかが必要です。

- Systemwalker Desktop Keeper Base Edition V12.0/V13
- Systemwalker Desktop Keeper Standard Edition V12.0/V13
- Systemwalker Desktop Keeper V14g/V15

6. NavigatorAPIを使用したアプリケーションを開発する場合

- Visual Studio Professional 2010/2012/2013/2015
- Visual Studio Premium 2010/2012/2013
- Visual Studio Ultimate 2010/2012/2013
- Visual Studio Enterprise 2015

7. OAソフトウェアを利用する場合

(1)表計算ソフトウェアを利用する場合は、以下が必要です。

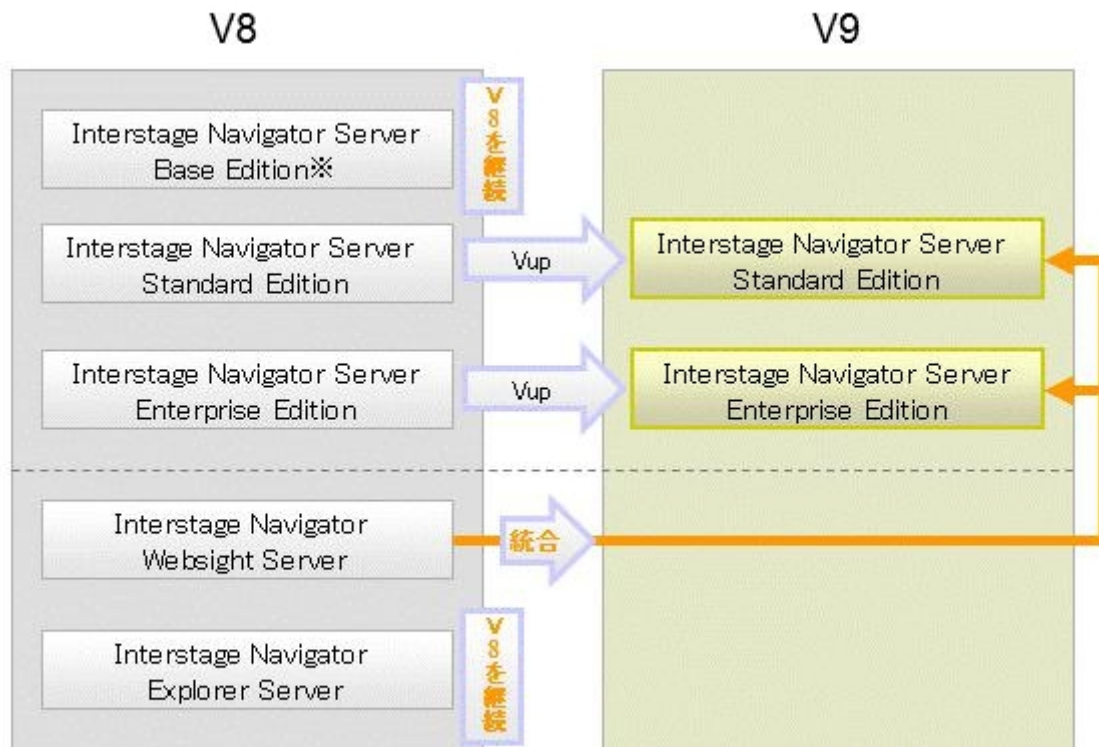
- Microsoft Excel 2007/2010/2013/2016

(2)文書編集ソフトウェアを利用する場合は、以下が必要です。

- Microsoft Word 2007/2010/2013/2016

1. 製品体系の変更について

Interstage Navigator Serverの各エディションと、それぞれの機能範囲を、V8.0以前から以下のように変更しています。



※Interstage Navigator Server Standard Edition V9への移行パスを用意しています。

2. Websightの互換用パッケージの動作環境について

互換用パッケージのWebsightは以下の範囲で利用可能です。

(1) 必須ソフトウェア

- Interstage Application Server Standard-J Edition V8/V9 (32bit)
- Interstage Application Server Enterprise Edition V8/V9 (32bit)

(2) サーバOS

- Oracle Solaris 10

(3) クライアントOS

- Windows Vista
- Windows 7

(4) 対応ブラウザ

- Microsoft Internet Explorer 9/11

(5) クライアントのJava実行環境

Interstage Application Serverに同梱されているJava実行環境をインストールしてください。

3. 利用可能なデータベースについて

本製品で利用可能なデータベースは以下のとおりです。

- ・ Symfoware Server Enterprise Extended Edition V8/V9/V10/V11
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V8/V9/V10/V11
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V12 (Nativeインターフェース)
- ・ Symfoware Server Standard Edition V8/V9/V10/V11
- ・ Symfoware Server Standard Edition V12 (Nativeインターフェース)
- ・ Oracle Database Enterprise Edition R10.2.0/R11.1.0/R11.2.0/R12.1.0/R12.2.0
- ・ Oracle Database Standard Edition R10.2.0/R11.1.0/R11.2.0/R12.1.0
- ・ Oracle Database Standard Edition One R10.2.0/R11.1.0/R11.2.0/R12.1.0
- ・ Oracle Database Standard Edition 2 R12.1.0/R12.2.0

なお、データ参照用のみ、以下のデータベースも利用できます。(ただし、Navigatorサーバの辞書用として、上記データベースのいずれかが必要です。)

- ・ Symfoware Server Standard Edition V12 (Openインターフェース)
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V12 (Openインターフェース)
- ・ Symfoware Analytics Server Standard Edition V12
- ・ DataDirect Connect ODBC Driver for Server 3.6で接続されたデータベースシステム
- ・ Symfoware ServerのRDA-SV機能を使用して接続されたデータベースシステム (注)
(注) Navigator Server が32bitの場合のみ、利用可能。
- ・ Sybase IQ 15/16 (販売元：株式会社 富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ)
- ・ FUJITSU Integrated System Analytics Ready
- ・ FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Analytics
- ・ FUJITSU Integrated System HA Database Ready SX1/SX2(Open SQLを利用した接続のみ可能です)
- ・ FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for HA Database SX3(Open SQLを利用した接続のみ可能です)

4. Webコンポーネントの論理空間について

Webコンポーネントは、Oracle Solaris上(32bit論理空間のみ)で利用できます。

5. Webクライアントを利用する場合

(1) 対応Webブラウザ

Webクライアントで動作可能なWebブラウザは、以下のとおりです。

- ・ Microsoft Internet Explorer 9/10/11

(2) 辞書管理者向け機能は、Navigator辞書管理ツールを利用してください。Webクライアントを利用する場合は、以下の機能が利用できません。

- ・ エキスパート向け分析機能(イベントアナライザ、スクリプティング)
- ・ 個人の管理ポイント作成
- ・ マルチクロスレポート
- ・ アラーム機能
- ・ データ項目を表側・表頭に指定する集計機能

6. Webコンポーネントのカatalog管理ツールを利用する場合

(1)ハードウェア

CPU : Pentium II 500MHz以上(起動性能はクライアントPCの性能に大きく依存)

メモリ : 128MB

(2)対応Webブラウザ

Microsoft Internet Explorer 9/10/11

(3)Java実行環境が必要です。

Interstage Application Serverに同梱されているJava実行環境をインストールしてください。

Microsoft Internet Explorer 10/11で使うにはInterstage Application Server V11に同梱されているJRE 6/7のインストールが必要です。

Windows10のMicrosoft Internet Explorer 11で使うにはInterstage Application Server V11に同梱されているJRE 7のインストールが必要です。

[Windows 10/8/8.1の場合]

- Interstage Application Server Standard-J Edition V11
- Interstage Application Server Enterprise Edition V11

[Windows 7の場合]

- Interstage Application Server Standard-J Edition V9/V10/V11
- Interstage Application Server Enterprise Edition V9/V10/V11

[Windows Vistaの場合]

- Interstage Application Server Standard-J Edition V9/V10/V11
- Interstage Application Server Enterprise Edition V9/V10/V11

7. Unicodeで使える文字について

Unicodeの使える文字は、Windows標準文字セット（Shift-JIS）の範囲です。また、Unicodeは、データソースが、Symfoware ServerとOracleとCSVファイルの場合のみ利用可能です。

8. CSVファイルを利用する場合

Unicodeを利用する場合は、BOM（Byte Order Mark）なしのUTF-8の形式で、利用してください。

9. Webクライアントおよびカタログ機能を利用する場合の使用可能な文字について

Webクライアントおよびカタログ機能を利用する場合の使用可能な文字の範囲は、以下のとおりです。

• Webコンポーネントと同じサーバにInterstage Charset Manager Standard Edition Agent を導入する場合、Webクライアント、カタログ機能で使用できる文字は、Windows標準文字セット（Shift-JIS）の範囲です。

• Webコンポーネントと同じサーバにInterstage Charset Manager Standard Edition Agent を導入しない場合に、Webクライアント、カタログ機能では、JIS X 0201、JIS X 0208範囲の文字を扱うことができます。ただし、以下に示す文字は扱うことができません。

範囲外の文字を使用した場合は、文字化け・条件のヒット誤り等が発生します。

文字	JISコード
～	0x2141
//	0x2142
ー	0x215d
φ	0x2171
£	0x2172
ㄣ	0x224c

10. データウェアハウスのテーブルの定義・更新について

データウェアハウスのテーブルを定義・更新する機能はありません。

11. 基幹系システムのデータベースからのデータの取り込みについて

基幹系システムのデータベースからデータウェアハウスにデータを取り込む機能はありません。

12. ディスク所要量・メモリサイズ・スワップサイズについて

ディスク所要量、メモリサイズ、およびスワップサイズは、目安値です。これらは、ユーザの業務設計、応用プログラムの数や処理対象のデータベース環境によって増加します。

13. Interstage Navigator Server Enterprise Editionが必要な場合

以下の機能を利用する場合は、Interstage Navigator Server Enterprise Edition をご利用ください。

- ・データマート生成
- ・二次加工分析(一般利用者が問い合わせ結果をデータベース上のテーブルとして保存して利用する機能/一般利用者によるデータ登録機能の実行)
- ・Navigatorサーバのクラスタ構成/負荷分散構成

14. Navigator Webコンポーネントの負荷分散システムを利用する場合

〔接続維持方式〕

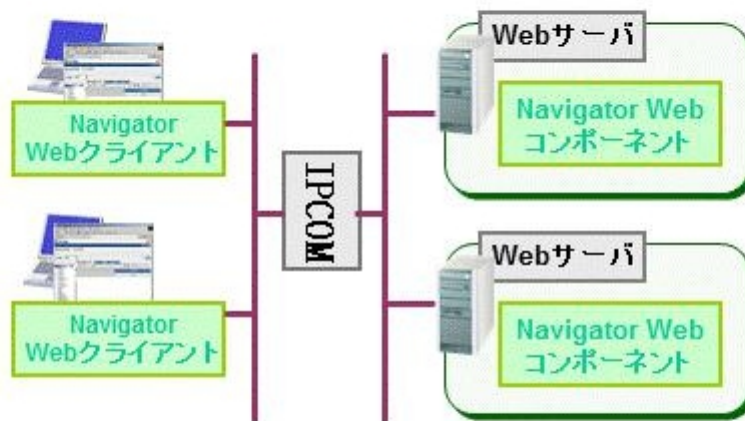
Navigator Webクライアントからの接続中には、常に接続先サーバが同じサーバになるように、IPCOMには、以下の機能が必要です。

- ・セッション維持機能(一意性保証機能)

〔ネットワーク構成〕

Navigator Webコンポーネントの分散は、IPCOMをNavigator WebクライアントとNavigator Webコンポーネントの間に設置してください。

共有機能を利用する場合は、Webコンポーネントの負荷分散システムは利用できません。



15. Internet Explorer 10/11を利用する場合

Internet Explorer 10/11を利用する場合、デスクトップ用 Internet Explorerでの利用が可能です。また、以下のOSでの利用が前提となります。

- ・ Internet Explorer 11
- Windows 10/Windows 8.1/Windows 7
- ・ Internet Explorer 10
- Windows 8

16. 前バージョン/レベルとの差異

本バージョンにおいて、以下はサポート対象外になりました。

[サーバ適応OS]

- ・ Solaris 8
- ・ Solaris 9

[対応ブラウザ]

- ・ Microsoft Internet Explorer 7
- ・ Microsoft Internet Explorer 8

17. Symfoware Server(Openインタフェース)を利用する場合のSymfoware Serverのライセンスの購入方法について

Symfoware Server(Openインタフェース)を利用する場合、Symfoware Serverのライセンスの購入方法について留意事項があります。

詳細については、弊社営業にお問い合わせください。

お客様向けURL

- **FUJITSU Software (Interstage Navigator Server)**
本商品の詳細は、以下のInterstage Navigator Serverホームページを参照してください。
<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/middleware/business-middleware/interstage/products/navigator/>
- **FUJITSU Software (ソフトウェアの一覧表 (システム構成図) と各種対応状況)**
価格/型名の一覧 (システム構成図) を提供しております。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>
- **FUJITSU Software (ライセンス)**
富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。
<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/licensesupport/>